

東都家事記

春下

二

76

3375

2



門 76
號 3375
卷 2

江戸歳事記卷之壹春之部下

二月

朔日 日光社支山新鏡橋新札所頂戴 上野園山天皇宗寺院

中丁日 湯治聖堂 シヤンテン 唐人ハ洋ナリ 程明道程伊川邵康節張栻周茂叔

朱文公より介紹 程明道程伊川邵康節張栻周茂叔 程明道程伊川邵康節張栻周茂叔 程明道程伊川邵康節張栻周茂叔

儼塾集七 甲子仲春詣江都上野先聖殿觀釋奠

今曉初觀先聖殿杏壇春雪更清鮮笙簧鼓樂融和至黍稷粢盛芳
潔連三聖明明如在上六賢翼翼似臨前慙慙拜于兩楹下且喜儒
風吾國傳

本中法事

○山の若小出家の中を最聖像と評せしめし
うしひののりまにけとらりしはゆとく人まかり 二位中将

初年 ○江戸中務所祭席日より賑はり 江戸府ハすくく務所勅法ノ社殿ハ武家

ハ庭庭毎ヨリ多クノ社アリ市中ハ一町ニ六
社勅法セラルル中一社ハ社ノ境内ニ安まる所ハ林歩と奏幣幣とさけ市中ハ桃灯

江戸中務所

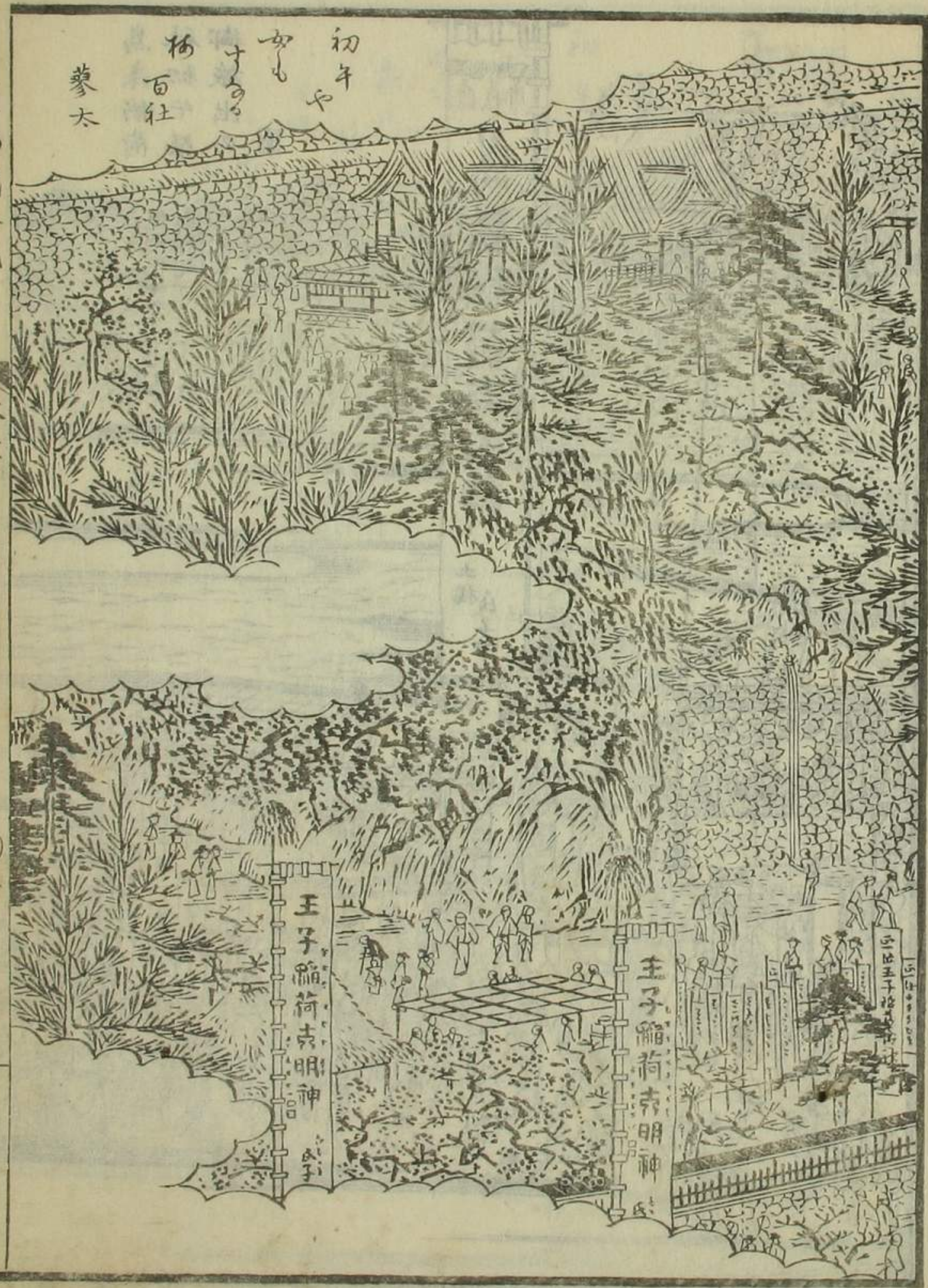
卷一

皇朝御製

東雅堂

早稲田 大學 圖書印
25.3.1
購 茶

東野成事記 卷二下

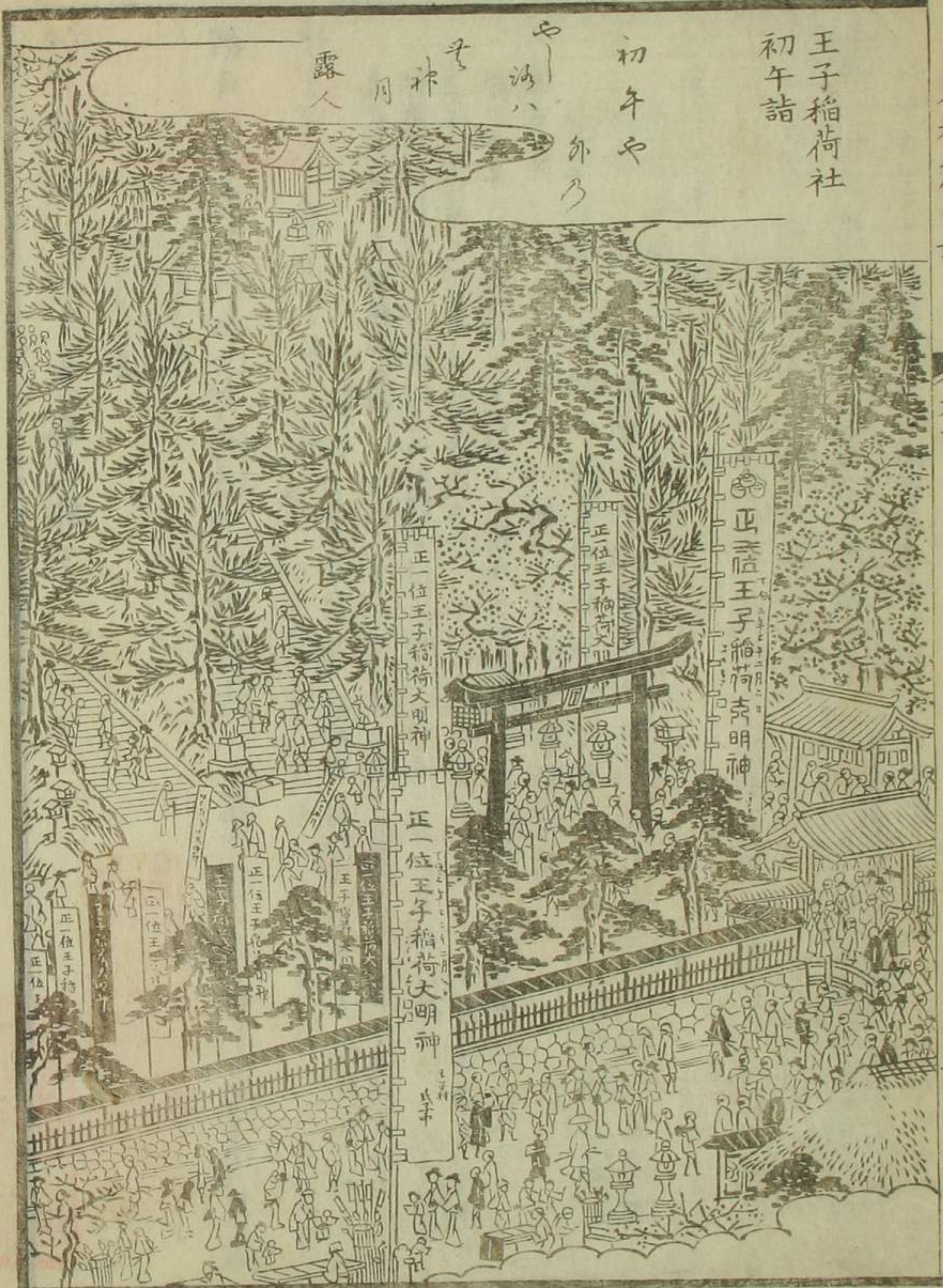


初年
 中
 十
 梅
 百社
 蓼太

王子稲荷大明神

王子稲荷大明神

王子稲荷大明神



王子稲荷社
 初午詣

初年
 中
 外
 八
 月
 露人

正一位王子稲荷大明神

正一位王子稲荷大明神

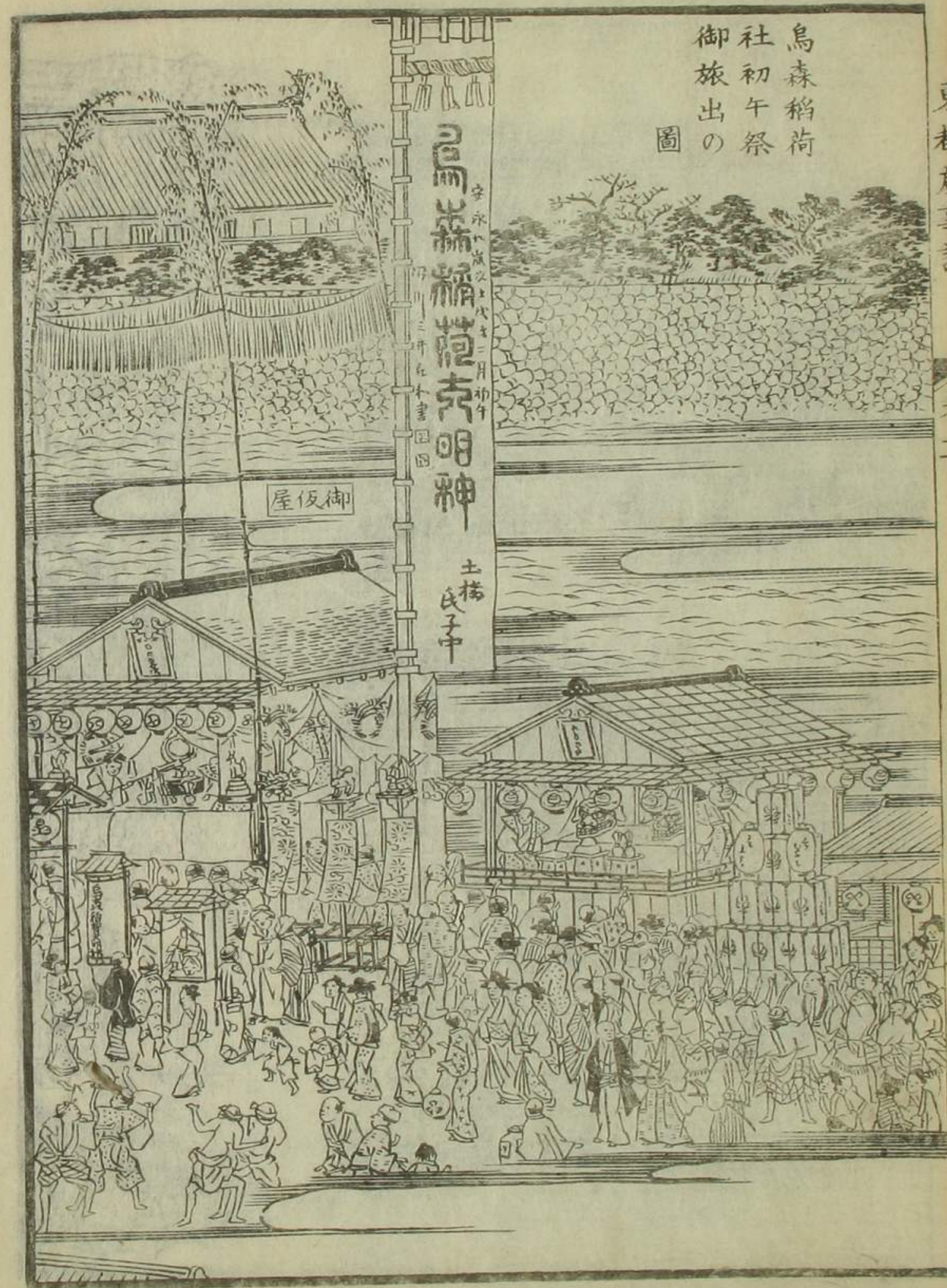
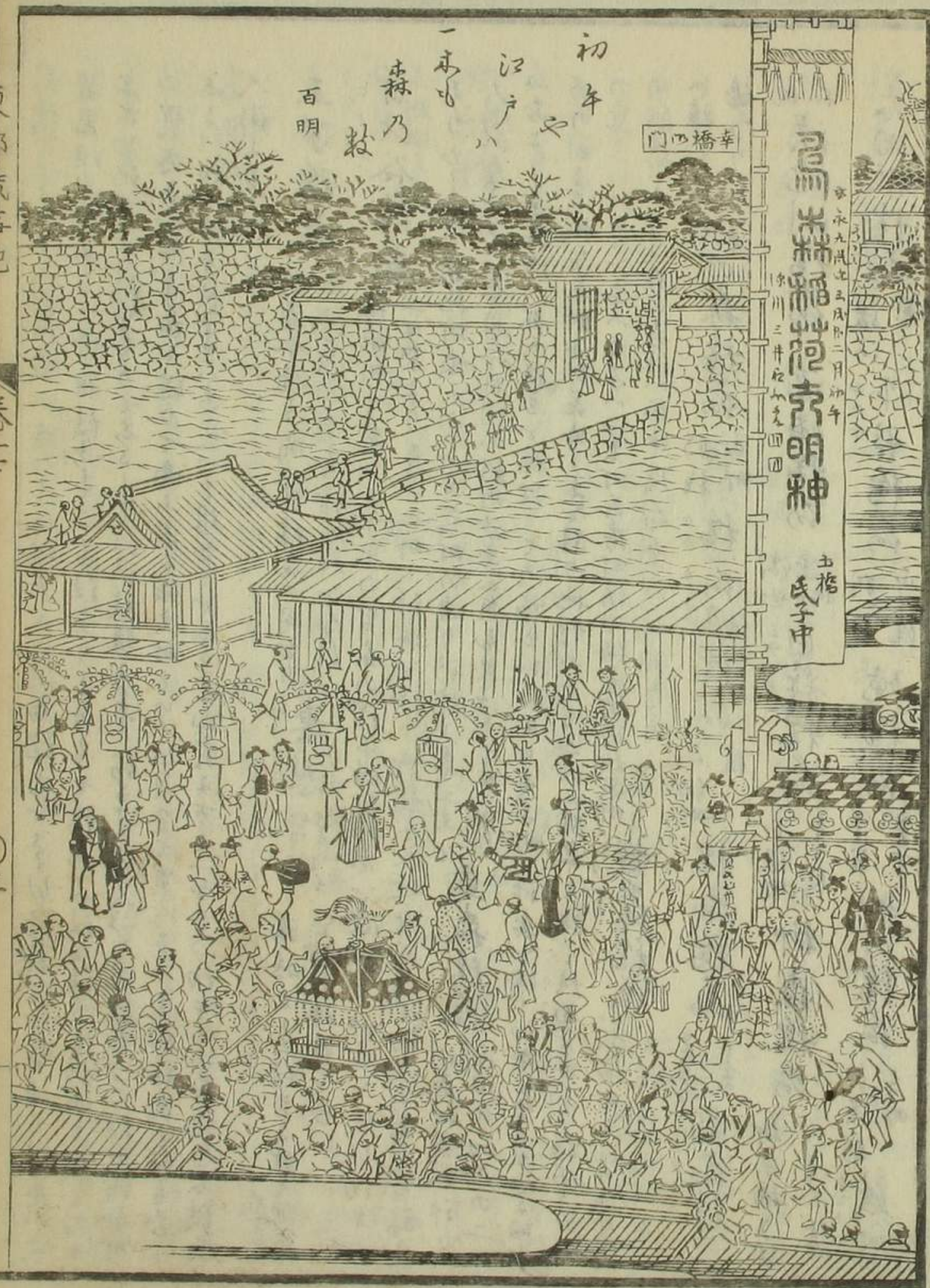
正一位王子稲荷大明神

正一位王子稲荷大明神

正一位王子稲荷大明神

正一位王子稲荷大明神

東野成事記 卷二下



乃焼くともいふ彩の織木達つゝの神ありは焼物焼火をさけ修験社を清て法皇は又男鬼洞を小集りて終極鼓吹を○女はまると号して稲荷子社へ詣り。此小き飯に己の名不と記しと札をとりてあること以此族殊多き。伊豆も中人以下の能なり○林田紺屋町の辺に高小宮を造りて高ふを。依之町とすは月分て買人より東坊稲荷の社をありあまほ如くあまほむまほに。主雄多と巻する已亥より万が一なり○初午の山家繪る太鼓商人街より

王子稲荷

別当金輪寺因八女稲荷の司あり妻戀稲荷 湯崎より法皇に於て御意とありあ日より法人群を以

日比谷稲荷

源助町と芝に三丁目のお宮の横に焼く飯を儲けし神楽と述は初午乃ありあり神り物焼物出する日蔭町の通り乃焼く飯を工支とあり産子芝に二丁目因本町波留二角屋源分下等あり

烏森稲荷

別当杖長院津之小田氏初午の二日ありあり幸橋河門外へ飯を補理して神出あり同日産子町に神楽と述は初午の翌日乃改裝あり町に太鼓と立獅子出花出し木と飾り焼物出あり又隔年二踊り焼物と出せり旅布より枝の葉子の神侍とよみ産子二葉町波留同徳泉町

福徳稲荷

別当 穀豊稲荷 小田町あり神楽と述は初午の翌日乃改裝ありあり幸橋河門外へ飯を補理して神出あり同日産子町に神楽と述は初午の翌日乃改裝あり町に太鼓と立獅子出花出し木と飾り焼物出あり又隔年二踊り焼物と出せり旅布より枝の葉子の神侍とよみ産子二葉町波留同徳泉町

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

白籠稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

境稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳の稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

柳森稲荷

別当 柳の稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷 柳森稲荷

○今日上野清水へ百五十里ありと云はる者ありてこれ後船を泊る由云ふなり
 ○昨日小児が習読書の師匠へ入門せしむる者あり「この字より習ひて名を稱せしむる
 二年二年〇古例ふより又ハ初年の日さくるより四日今日ありと云ふなりむかひ
 町お八より初年小籠りあり
 ○二年日聖坂功運も徳前津東無引は長境内の本の寺これ橋大くさるなり
 ○二年の日に谷草町境橋を築かて宝曆十一己未よりハ隔年ハ津東と後一井町二日
 二日四教を町上とせしむるなり根津門五町回六永町湯橋津安寺同根津既
 門あり上町より十一番の中一初り物と申すなり同十三未年津東より言次一安永二
 午よりハ津東も出ると云ふなり

彼岸

○春分の初日より二日
 七日の習諸寺院佛事と修し説法未成なり

○六阿弥陀系 六種よりハ基井の徳あり
 彼岸中郡都鄙の信人路不遠つ

六番 下谷廣山院 田畑ハ

二番 下谷廣山院 田畑ハ

二番 下谷廣山院 田畑ハ

二番 下谷廣山院 田畑ハ

二番 下谷廣山院 田畑ハ

二番 下谷廣山院 田畑ハ

二番 下谷廣山院 田畑ハ

二番 下谷廣山院 田畑ハ

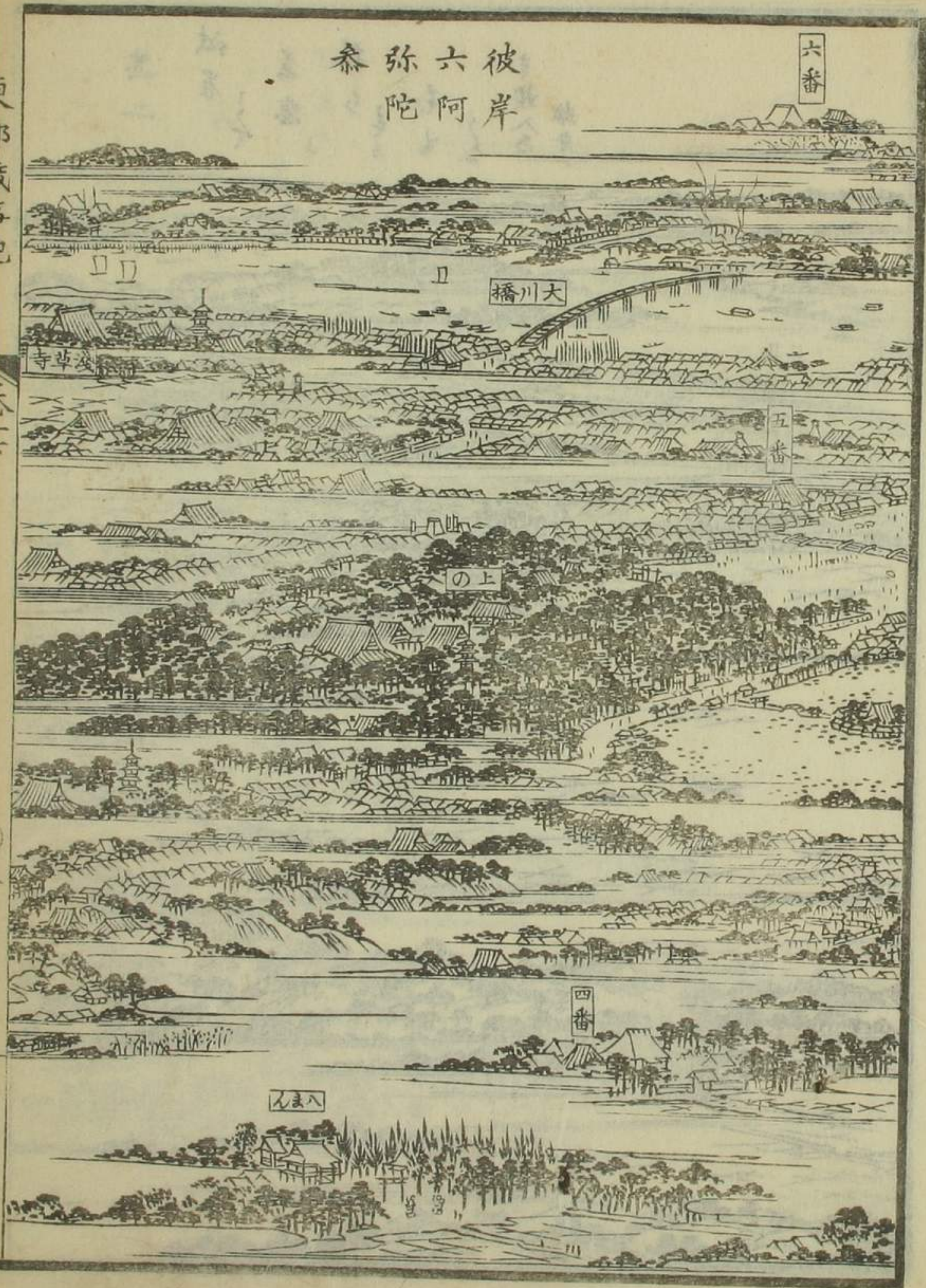
二番 下谷廣山院 田畑ハ

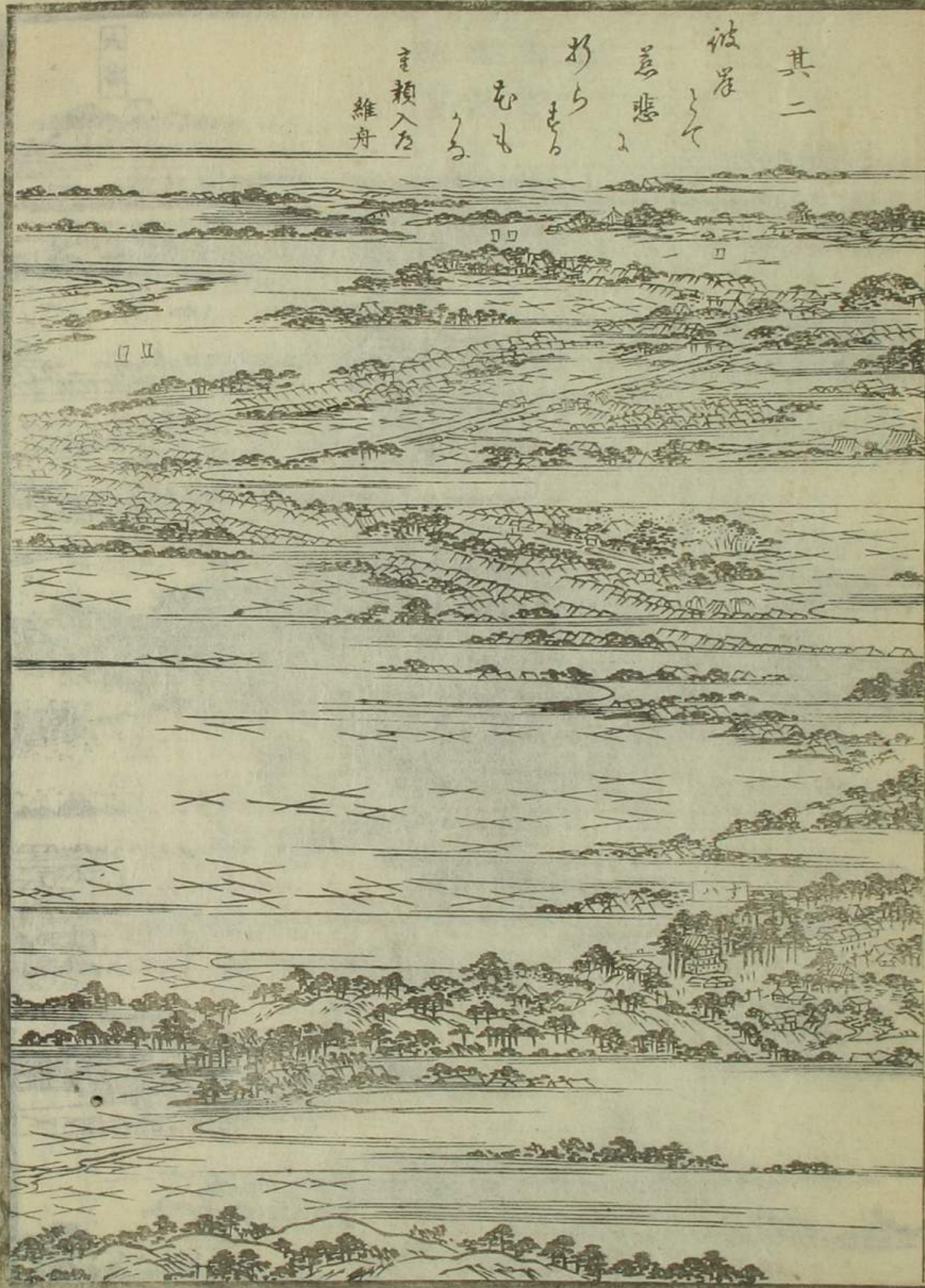
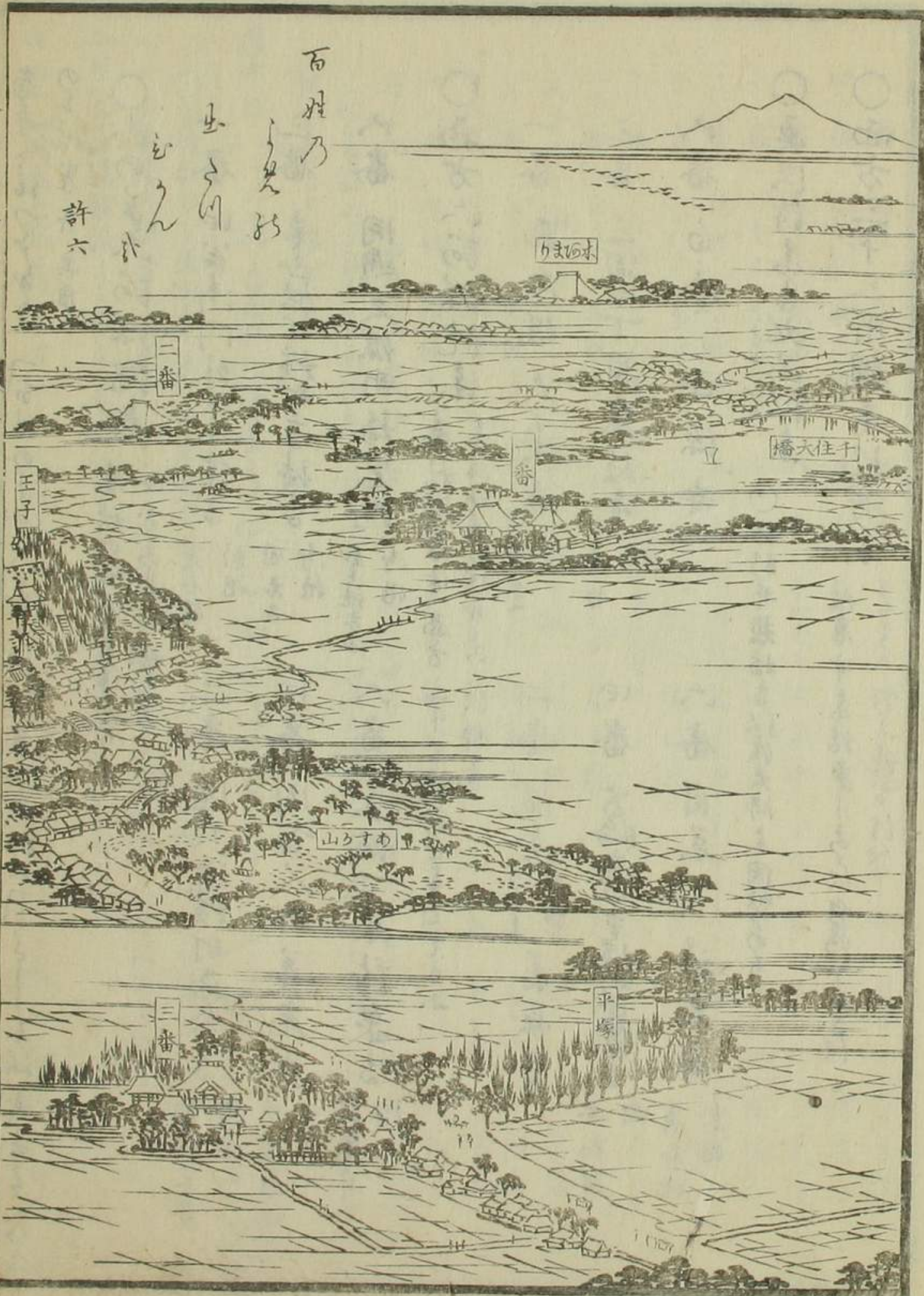
二番 下谷廣山院 田畑ハ

二番 下谷廣山院 田畑ハ

二番 下谷廣山院 田畑ハ

文誠村性翁も阿弥如來の像ハ基井ハ阿弥陀の本木と云へ造り中ハあり世傳云あり
 の阿弥より入道延命院より三子修町へなる云ふなりハありハ阿弥陀巡礼の聖ハあり





東平蔵事記

東平蔵事記

高寺法つるあり 百姓のくはるはるは川彼岸うま許六つとていふは或はたつたのり彼岸外其角

○山のふた阿波陀泰

春秋の彼岸高法河り 海ふまは成略ま

一番 田谷河門外了字

二番 同大通換町初念寺

二番 善山慧性横町高徳寺

三番 同百人町善光寺

六番 同通久保町梅窓院

六番 赤坂一本新泉寺

○西方六阿波陀系

春秋彼岸中西方六阿波陀系とせりふ 兼法河り海ふまは成略ま

一番 西久保大養寺

二番 版倉け町長長寺

二番 田田丁目春林寺

三番 高輪原中堂換町覚寺

六番 白令正源寺

六番 目黒祐天寺

○奥沢津まる丸不伝系

○西新井熱持寺は法大師末開帳あり 彼岸中東法寺ありは唯此とていふとより此は唯此とていふ

○西方三十三所観音札所系

彼岸中東法寺ありは唯此とていふとより此は唯此とていふ

一番 版倉 吹り寺 二番 西久保 考書院 三番 田邊中 善光院

四番 善後寺 長久寺 五番 西久保 天徳寺 六番 高輪原 陽泉寺

七番 麻布谷丁 永昌寺 八番 今井寺 大泉寺 九番 六本木 栄蔵寺

十番 六本木 光吉寺 十一番 六本木 源廣寺 十二番 三十三番 下流谷 長心寺

十三番 一本松下 意多寺 十四番 西久保 遍照寺 十五番 西久保 祐念寺

十六番 三井坂 白心寺 十七番 西久保 樹林寺 十八番 西久保 無之院

十九番 又より言論へり 二十番 三井坂 魚見 二十一番 西久保 魚見

二十二番 三井坂 林泉寺 二十三番 西久保 魚見 二十四番 西久保 魚見

二十五番 三井坂 聖坂 海濱寺 二十六番 西久保 魚見 二十七番 西久保 魚見

二十八番 西久保 白心寺 二十九番 西久保 魚見 三十番 西久保 魚見

三十一番 西久保 魚見 三十二番 西久保 魚見 三十三番 西久保 魚見

三十四番 西久保 魚見 三十五番 西久保 魚見 三十六番 西久保 魚見

三十七番 西久保 魚見 三十八番 西久保 魚見 三十九番 西久保 魚見

四十番 西久保 魚見 四十一番 西久保 魚見 四十二番 西久保 魚見

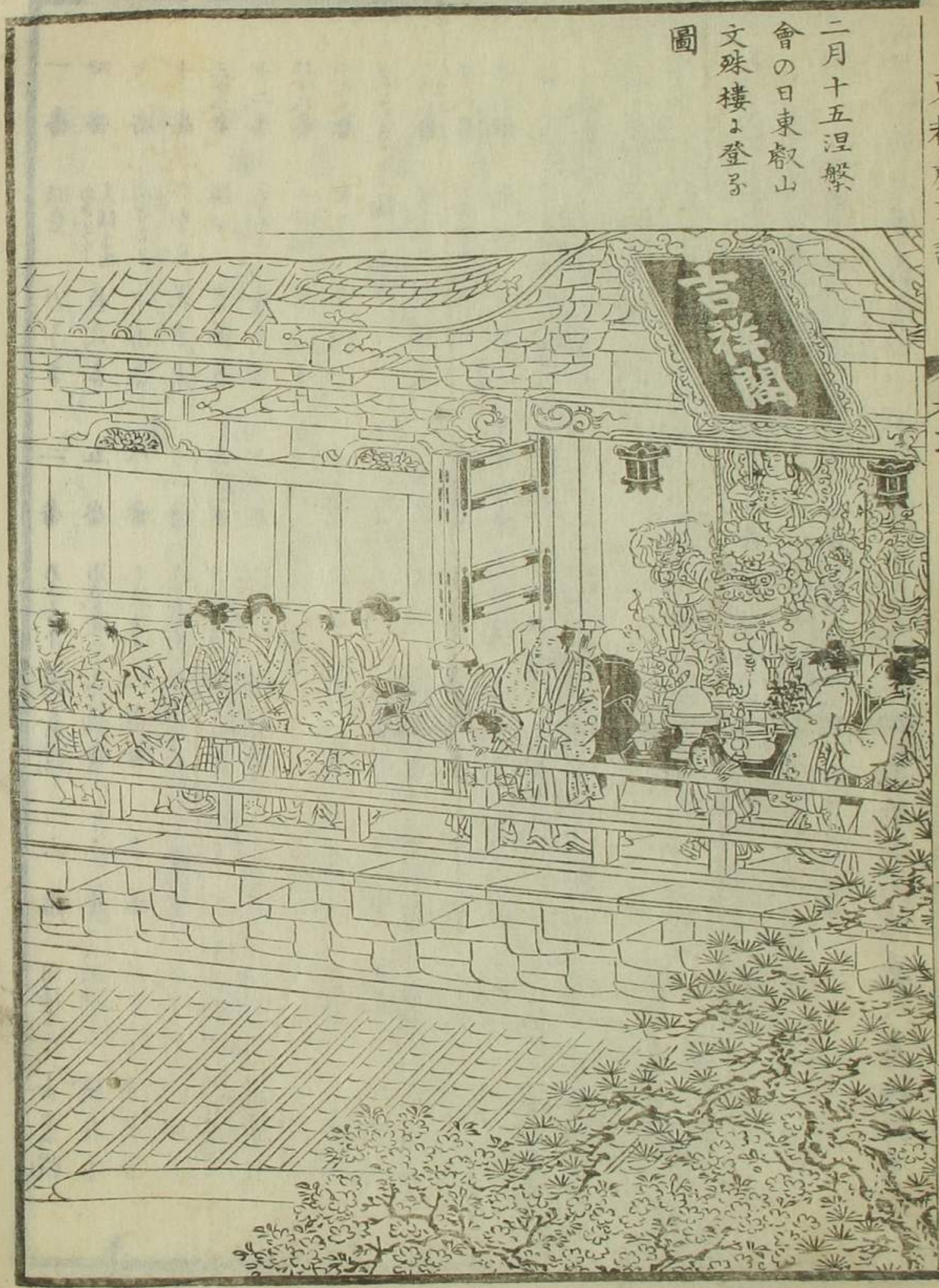
四十三番 西久保 魚見 四十四番 西久保 魚見 四十五番 西久保 魚見

四十六番 西久保 魚見 四十七番 西久保 魚見 四十八番 西久保 魚見

四十九番 西久保 魚見 五十番 西久保 魚見

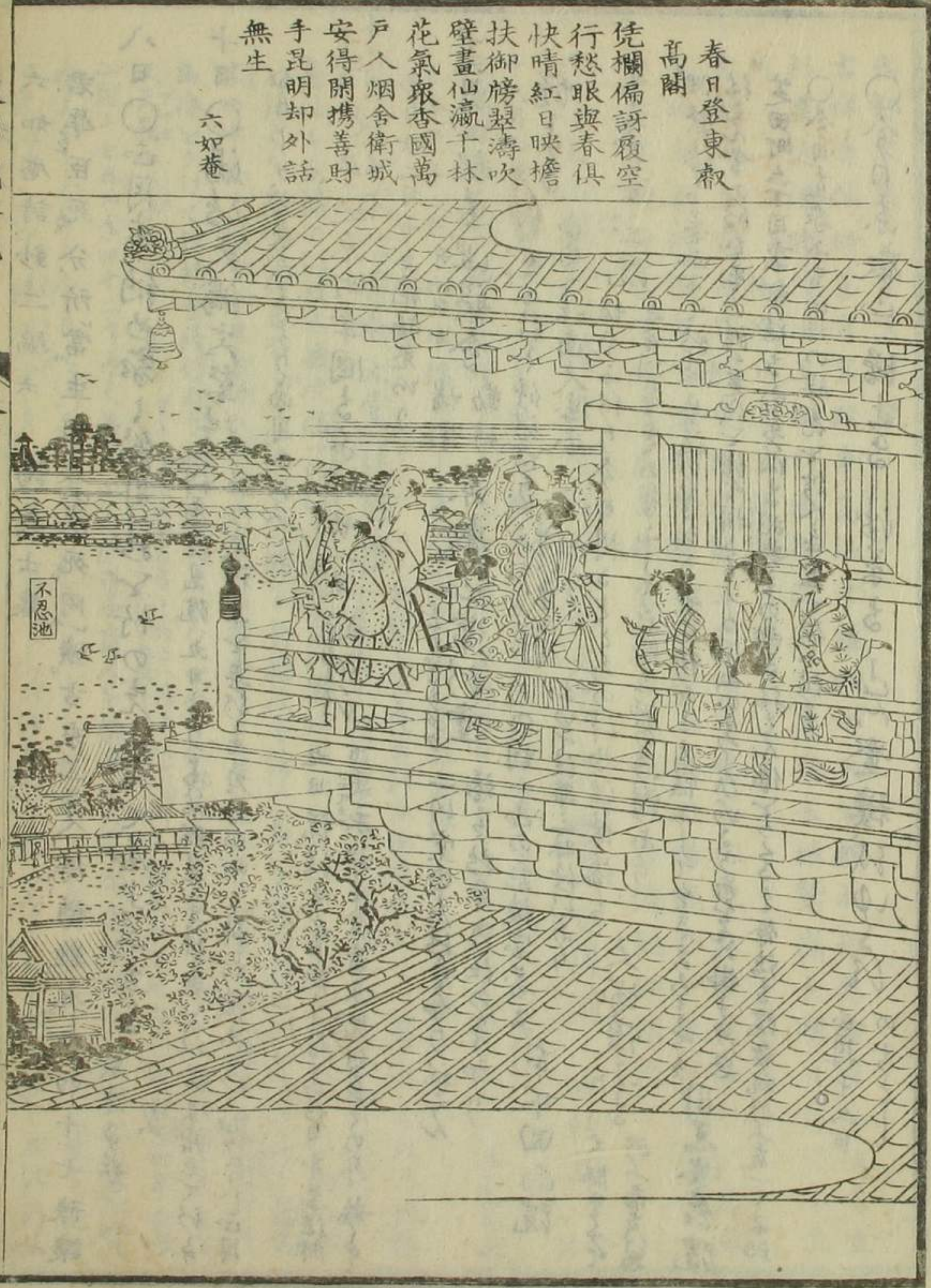
同日 ○沙世家義士四十七人の忌日なり高輪泉寺より墳墓へ参詣あり
○言論泉寺に伝文あり画る大聖茶羅木掛る ○中目と三日の田畑大粒も大粒加持
上野法親音堂放生會 ○小石川牛天神境内香と洋と秋の彼岸も同
二日 ○伝説越後より回年来り住へる公人多数の暇とておんあへり
同日 ○沙世家義士四十七人の忌日なり高輪泉寺より墳墓へ参詣あり

二月十五涅槃
會の日東叡山
文殊樓に登る
圖



春日登東叡
高閣
凭欄偏訝履空
行愁眼與春俱
快晴紅日映擔
扶御榜翠濤吹
壁畫仙瀛千林
花氣散香國萬
戶人烟舍衛城
安得開携善財
手昆明却外話
無生

六如菴



東都歲時記

卷一下

六如庵詩鈔二編六 謁義士墓
君辱臣死分所當生同吞炭死同墮古來一人得猶難况乃四十七豫讓

八日○正月車納め家々籠目籠と竹の先小付て屋上ふまふ
或は多路

十日○湯湯天満文藝會
別當森見院九日より多路群集ま林書と社ま居居ては
あり又林書と無りも産子の町に挑灯燄あきまむり正月
夕りしう字水ふまより正月ふり

十日○牛込東町幸園も子部廿一日追修り
九日説法十六日延生會まの日本書院師
西更衣放生會音楽鬼燈表その外執り

十日○秋言 諸宗 東叡山常行堂
二川堂の左法事ありはん
佛と持是法位の事あり

増上寺
己の刻一山の危徒室ま
本取回向院
おいて法華二昧修りあり

中谷養玉院
坂本少あり今日掛るところの付物涅槃像と
大塚護心寺 大師まて
おいて法華二昧修りあり

涅槃像と墨画にて持是法位の事あり
世小稀あり大帳ありてをきまらま
同恩安表院
ゆるん舎の胎本堂の像と紐と掛りしう風ぬのうらゆるるを掛りし

芝田町六丁目裏聖徳寺小東後も
此典の画を移さん像とるるを餘修り院者挑りま一不地
○今日在家も正月の縁花と修りま並てはみ依る

○今日東叡山 増上寺 沙彌寺 山に登樓以ゆ
正月十六日
のおと

南郭文集 登吉祥閣

吉祥層閣倚蒼穹宮殿爭高此地雄似叩天閭朝北極應觀世界住虛空
彩雲近傍諸陵出玉樹斜連御道通一自飛來稱驚嶺長懸日月照山東

同 佛滅日上三綠山三門
黄金開上苑白馬創東京待闕三門鎖登驚百仞成太虛通帝坐妙麗歷
乾城王氣深陵勢官陰徹梵聲練明迎海霽綺錯繞都平煙煖邑花早日

遲林鳥輕仲春傳佛滅萬古會羣生自力恒沙盡俯觀品類情

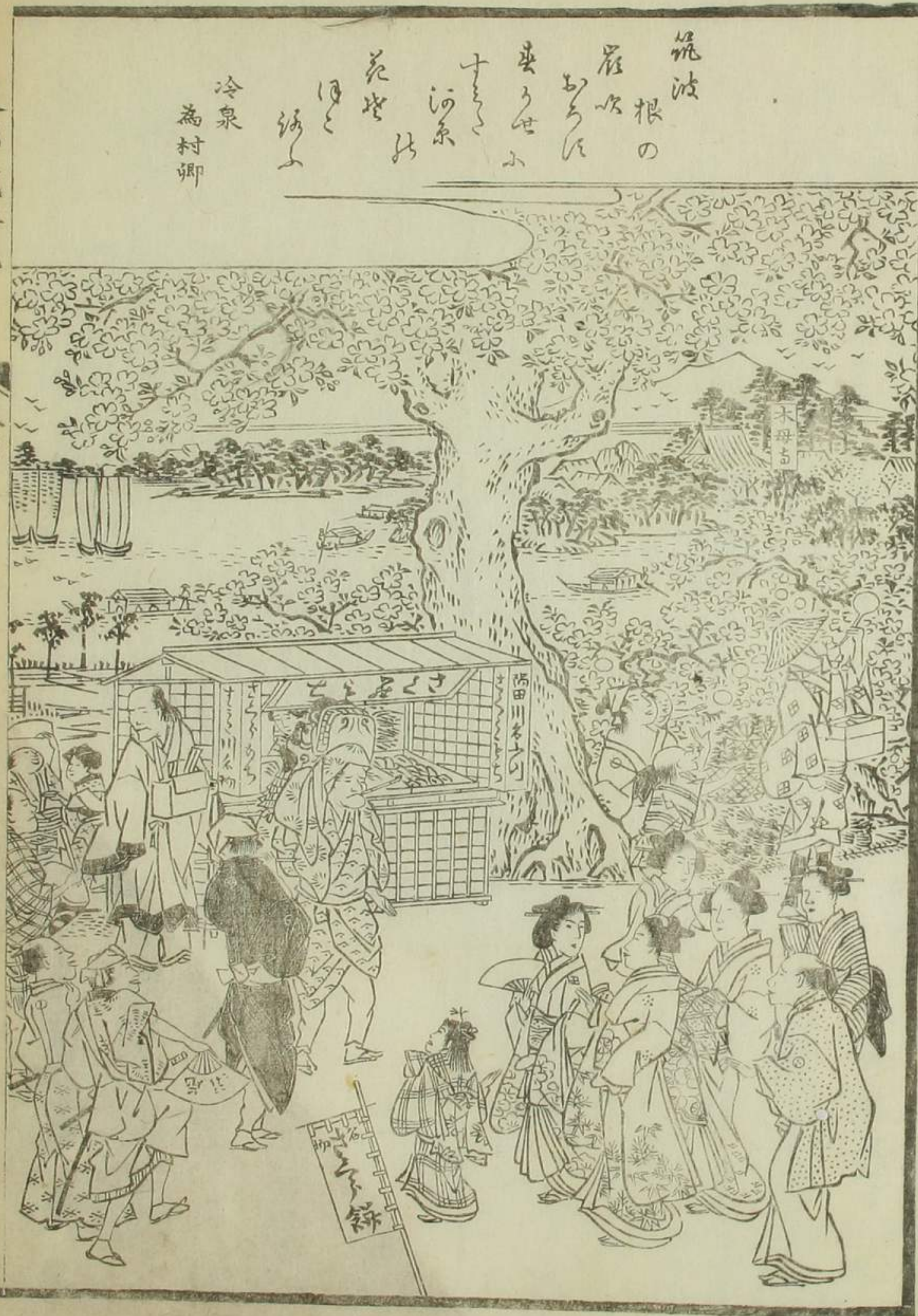
○小日向腹部坂法興寺法花經の文字少て画る六百羅漢小画幅掛る
正月

十六日の東り小あり○宮田穴八幡文林東無り○日谷天鼓も雷電稲前集札
○堺町中むら幼之存座少をけ日芝居始く無りの日なりとて一座のりはとをれ祝を寛永
元年甲子二月十六日中坊少於く無りしる古例あり今天保少ありて二百餘年ふり

十六日○本取一丁目天堂琵琶會
今箱十二座の神楽あり已刻より替者本社乃内陣
小集會一琵琶と弾一平家と語り未刻は終る

尚社も元祿の比松山檢校信一の幼法ありま檢校相則江の橋の每才天小形輕一針術の妙
と流り元祿の始末もけ地と評頌一檢校と給人毛江檢校の始ありしう尚道
宗の中無と福も今日系師六条坊門の小法聚庵も盲人集會一妙書天の画像兼ま替補乃
画像とつけて琵琶會修りあり傳へり人王の代 仁明天皇第四の皇子と人康親王と
又天孫の心子ともなる 世は光孝天皇の皇子とありしう同い眼あひさせあひ貞観十四年壬辰
二月十七日甲子十二才少く鹿野ありけ西子盲人と憐せあひて勾當檢校といふ坐臥の意と好
ありしう今日も洋忌の速報ありしう報恩のためあひて又翌十七日
日東河系少出て棲塔寺といふしう

東都談筆記



鏡波
 根の
 屋次
 おうら
 葉う世
 十
 河原
 花見
 冷泉
 為村郷

東都談筆記



墨田川堤
 看花

湯治麟祥院

根津権現社

小石川傳通院

本堂の左

大塚護持院

廣尾

光林寺

麻布

成子系寺

大木

中野宝仙寺

光明殿

目黒社

池上本門寺

大木本坊乃

聖坂功運寺

その他寺院あり

単辨様

○ 同六十日

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

谷中七面宮境内

駒込吉祥寺

小石川白山社

地蔵様

大塚護持院

小金井橋の支那

コガ子井

江戸より七里余あり

南の橋は寛永の昔橋にせり

一里餘支那悉く花本列り

支那の傍

支那の傍

支那の傍

支那の傍

支那の傍

支那の傍

同

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

王子金輪寺の花

花の傍

平塚社

妻沢九不佛

目黒社

池上本門寺

大塚護持院

不川御殿

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

高輪如來寺

世々大社と

隅田川堤

本母

同

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

重

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

同

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

同

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

同

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

同

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

同

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

同

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

同

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

同

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

同

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

同

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

同

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

同

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

同

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

同

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

同

東叡山

山王

吉祥園の傍

重慶院の辺

四軒寺所林の中

寺本坊

東都歳事記

卷二下

十一



遅様 ○ 同 東叡山 清石坂の上回本覚院 ○ 沙草のふかきころ海門八幡の園女
 花曆の一枚摺おとりにて日並と海を止まらに記せし、雨をむく日並なりま澄と見んとす
 ありとありおとれて見るとさかり様も限らぬ用花の時作え概定りあれも冬の寒ふりり
 かの遅迷あり又種数よりても花后あるう花一さ一ふとくともさうとくともさうとくとも
 さみゆとてはさうとくともさうとくともさうとくともさうとくともさうとくともさうとくとも
 不今未成より百余年ありと云り

花の以多跡香曲の師通門下の童子幼女と集へて花をいかに又春未成の花見と見日くも隅田
 川ありむより一子智の師と車中やむの児嵐雲

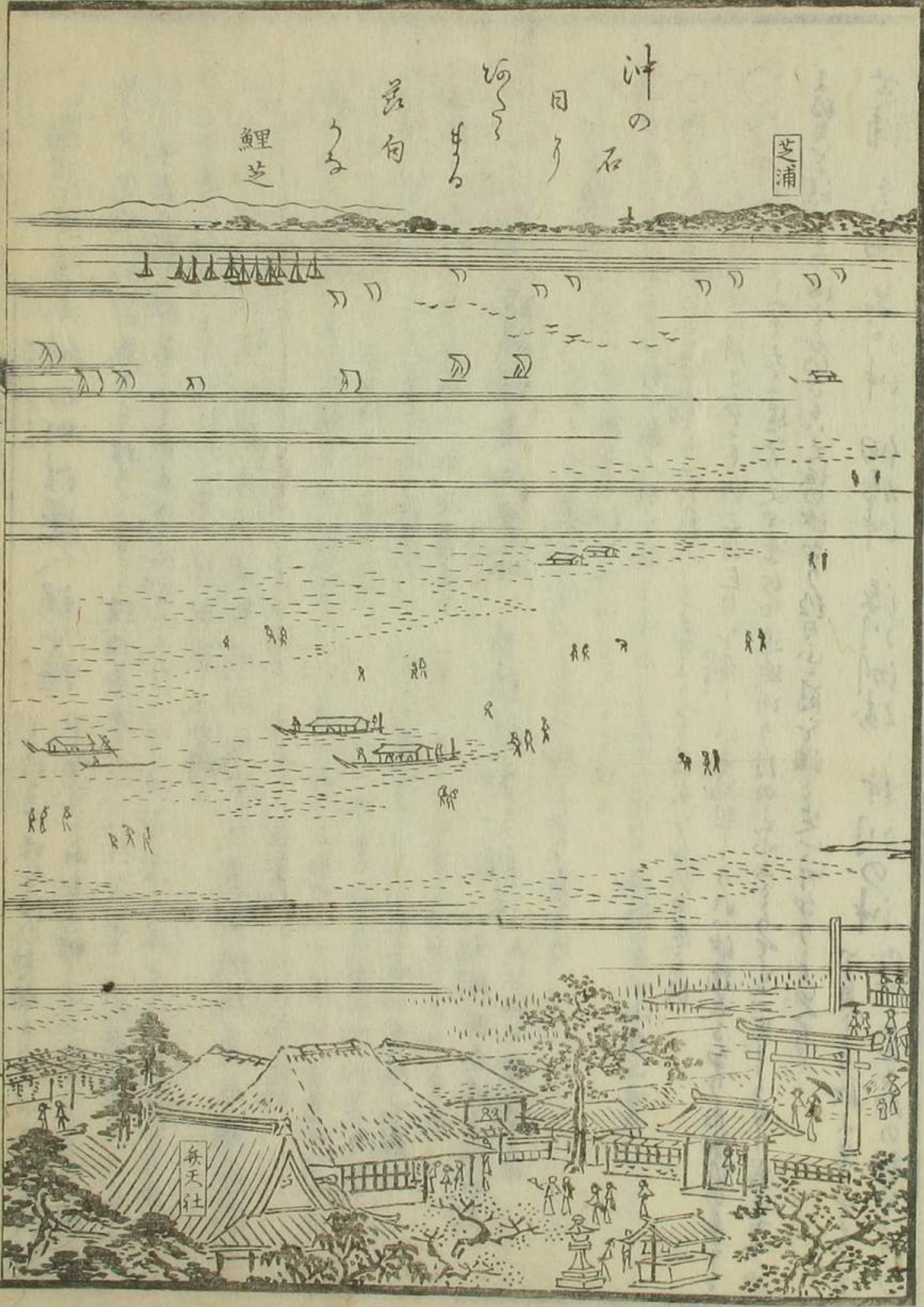
撫葉 ○ 三葉の七十 戸田の原 子住深井植木屋兼鴨植木屋を餘り
 を来紅白穀あけりを移りて移下に南の價むま

山茶 ○ 立葉より二十 上野坊中 平井 交地むく秋葉のあまの種の吳あり
 〇 飛渡山をを 怪窩文集に云古人云く我亦云我日本六十余州の留柱親度賢の長より誘り
 此を園より来八匹と甲と乙八匹の長ハ士輩或は隅田飛渡の四系と冠と云とくり来日隅
 田川亦飛渡山日葉里の幸をむ移まらり 或はいつくさうとくともさうとくともさうとくとも
 大坂淡々

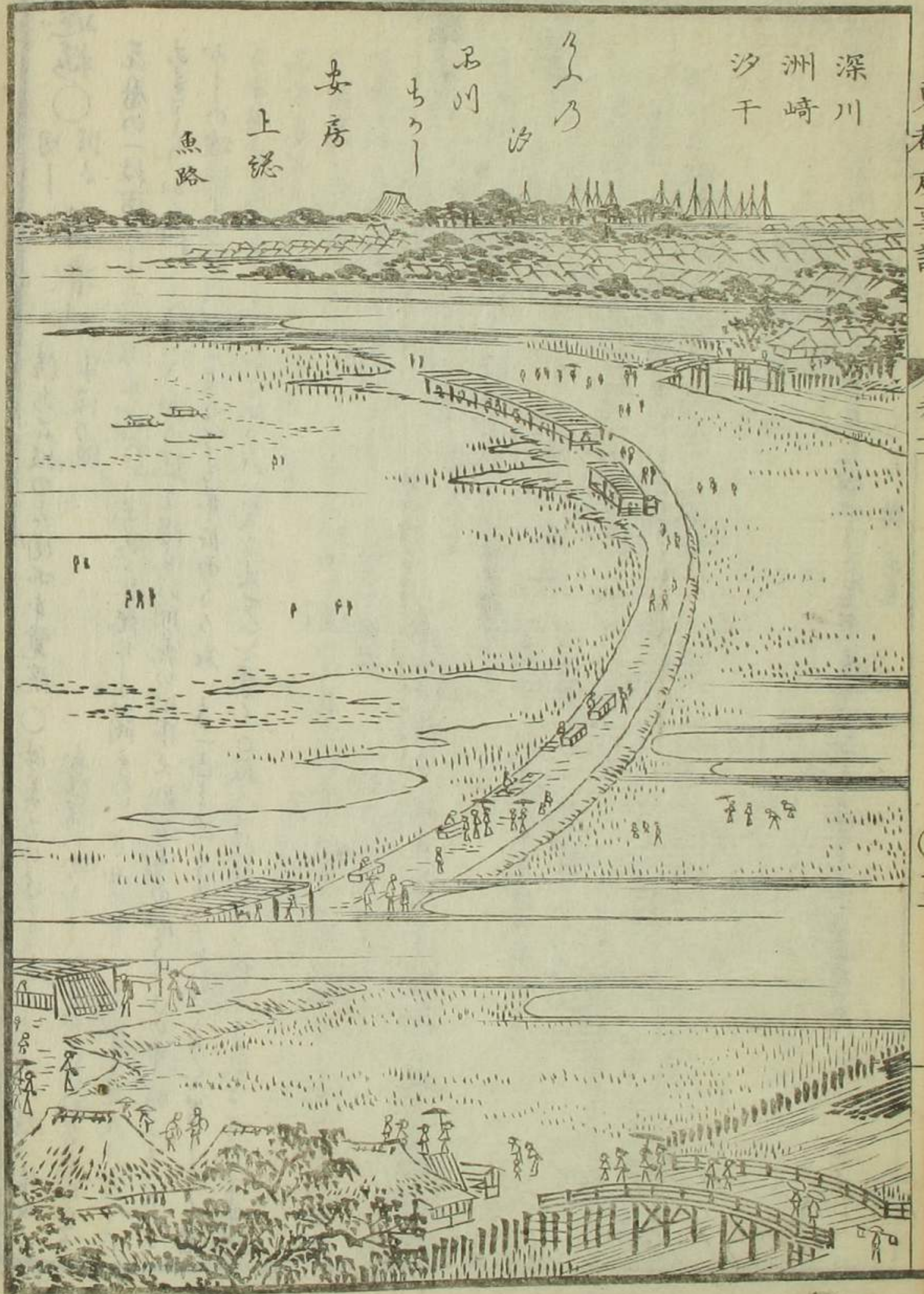
三月

朔日 ○ 阿蘭陀人幕府の年今日宅城せしうを来八日定りおしりすうく見物あり
 阿蘭陀もあまの来よりりり 鞍 芭蕉

高野山紀行



沖の石
 日
 白
 魚
 芝浦



深川
 洲崎
 沙干
 石川
 安房
 上総
 魚路

東都歳時記

卷二

十一

○尚月中吉原仲の町に還く様と地

持るるに宛延二己巳の春より始り... 増補越前子にのり... けは... ありあり... 多少... 居つけ... 風争... 武家...

三日 ○上巳新祝後諸侯御登城 良師佳節と祝と

○女子離遊

○今日因是... 尚月... 夕干

芝浦 高輪 赤川 仲 佃橋 沼川 洲崎 中川の沖

の沖より... 舟の刺さる

引始... 舟... 沼川... 沼干... 紙の... 全

四日六日 ○奉公人出立

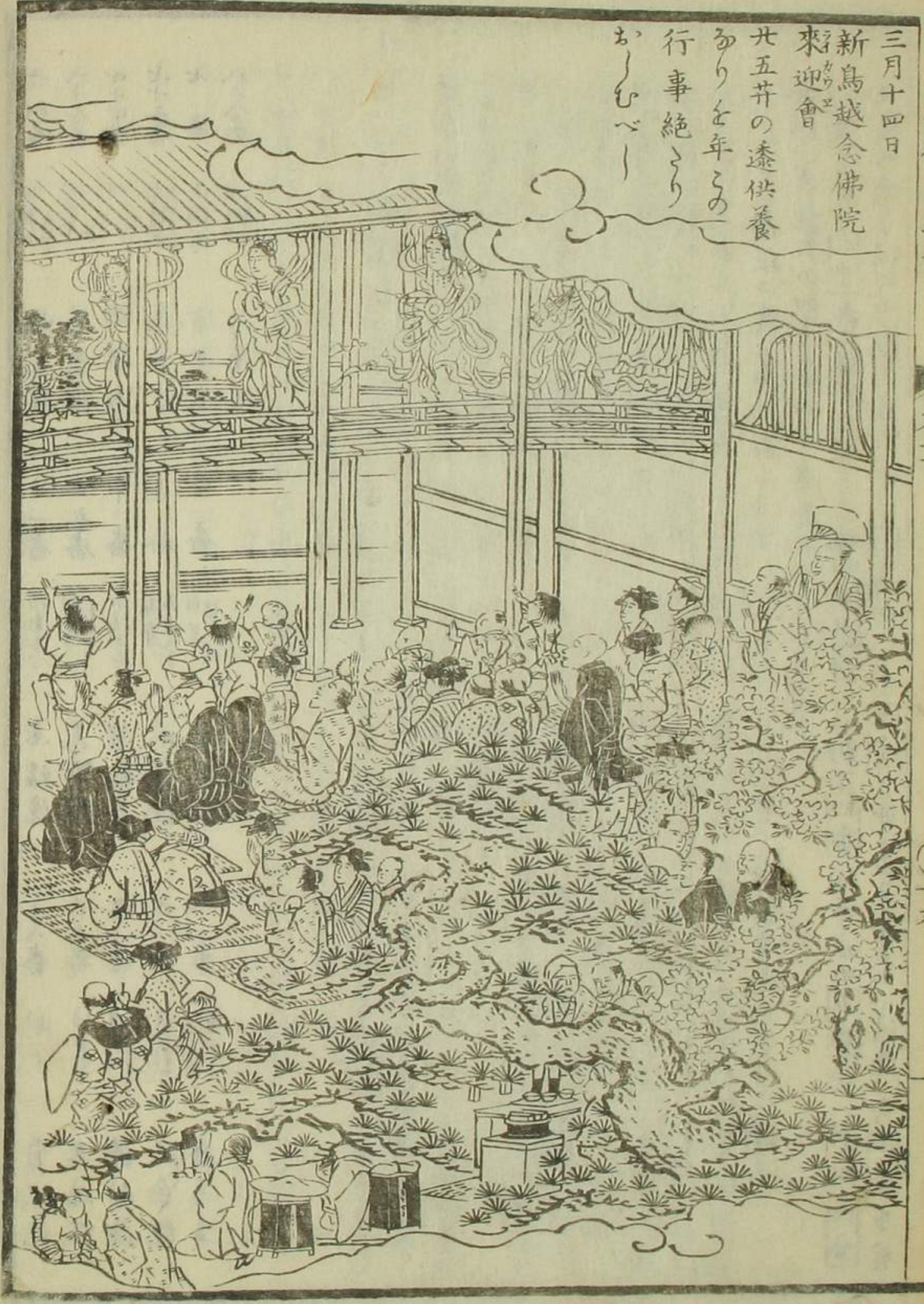
今日... 二月... 九日

○源川も町浄心も法花經多助十八日追修

十日 ○廿一日追世... 追修

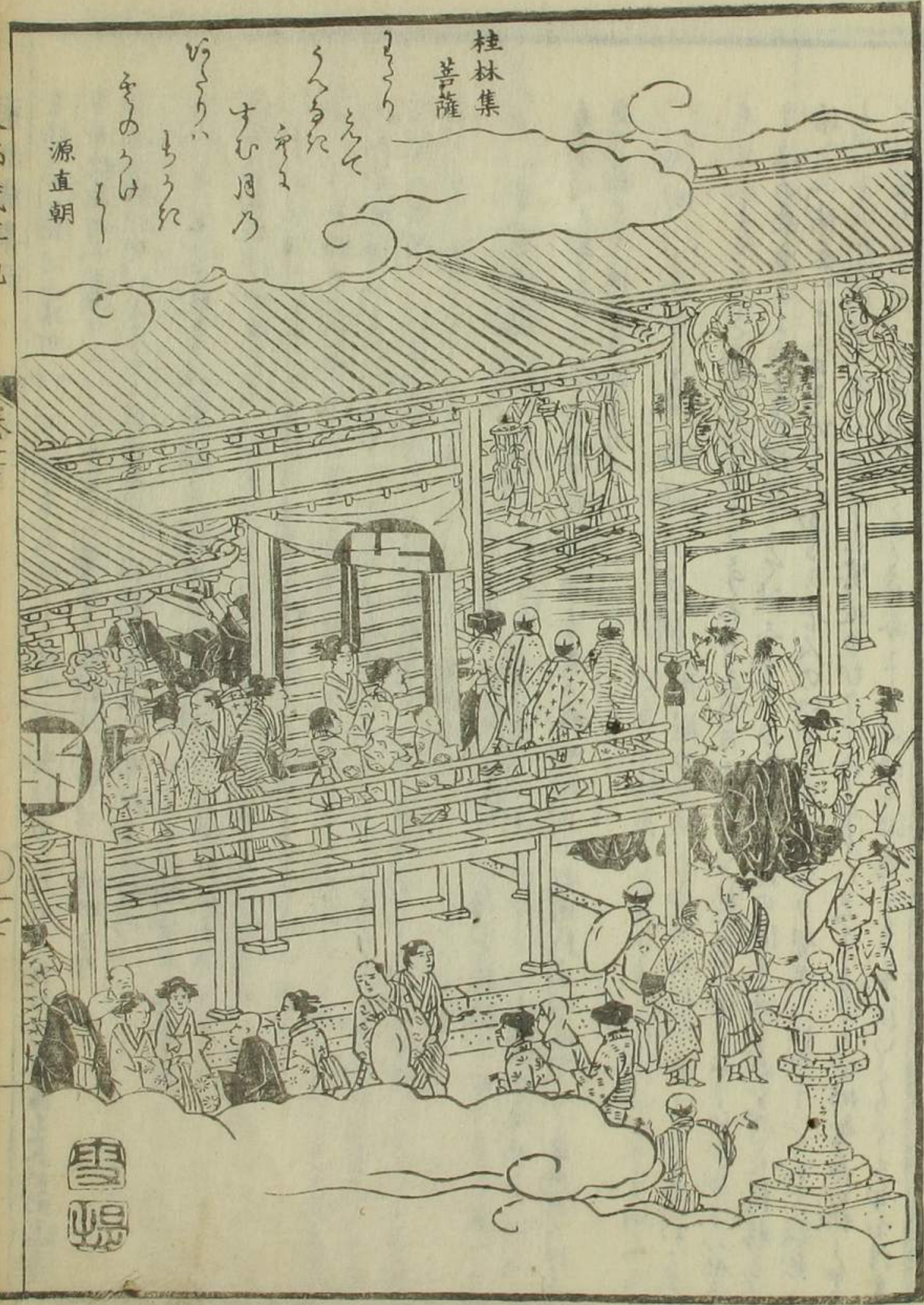
- 一番 二番 三番... 心覚院 八十番... 泉福院 八十番... 佛宗院 六十番... 大聖院

三月十四日
新島越念佛院
來迎會
北五井の遠供養
ありを年々の
行事絶つり
おひび



桂林集
菩薩

うんちん
えんせ
うんちん
すひ月乃
うんちん
そのうけ
源直朝



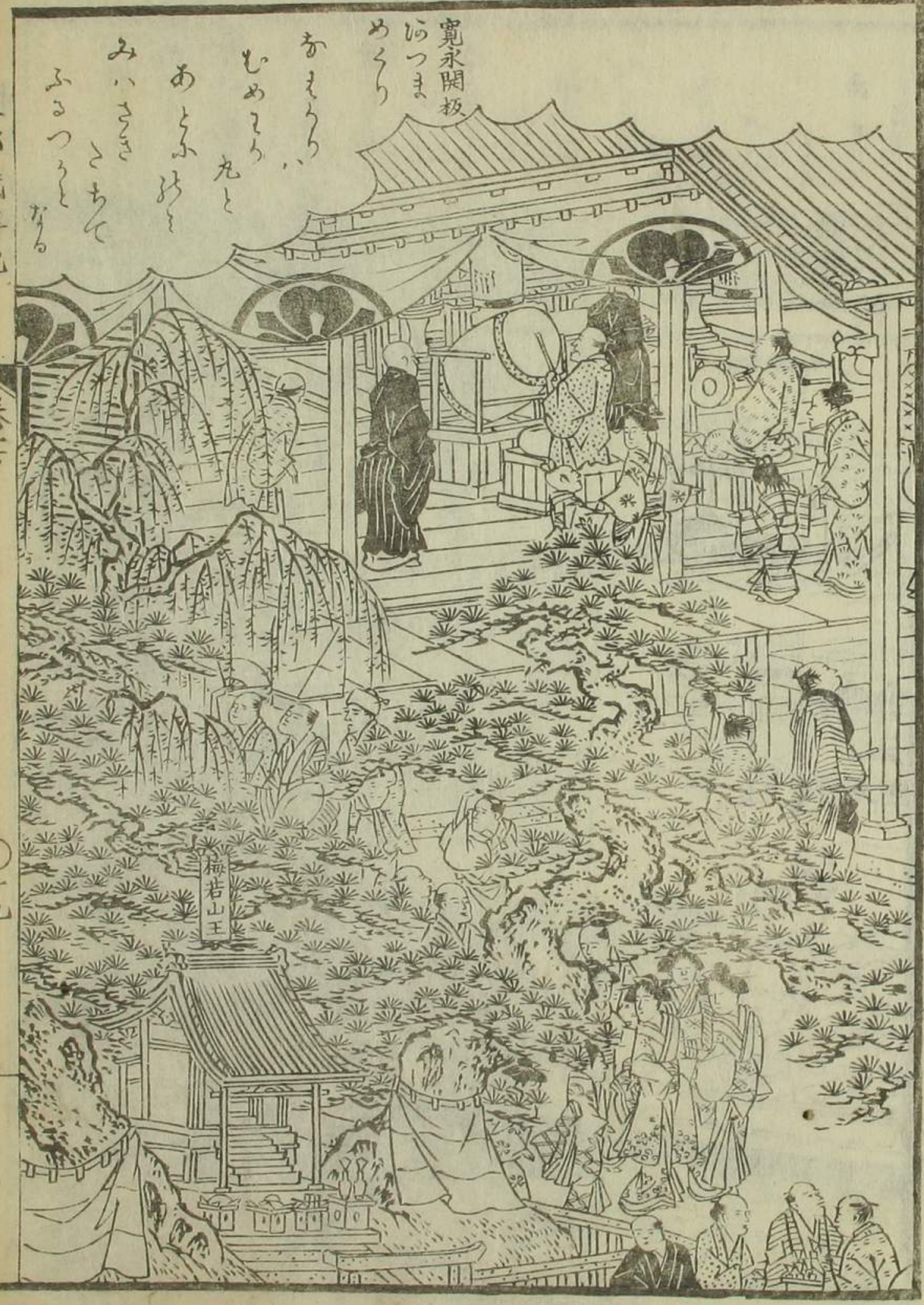
三月十五日
木母寺
大念佛

阿兒何處去柳絮
古江濱猶自春風
起年々飛著人
南郭



今乃
祈
波

寛永開板
河つま
めくり
かまくり
むめり
あふ
みいさ
ふさつ



梅若山王

三月十八日
淺草三社
権現祭禮

江戸名所記

浅草

川

の

あそび

の

あそび

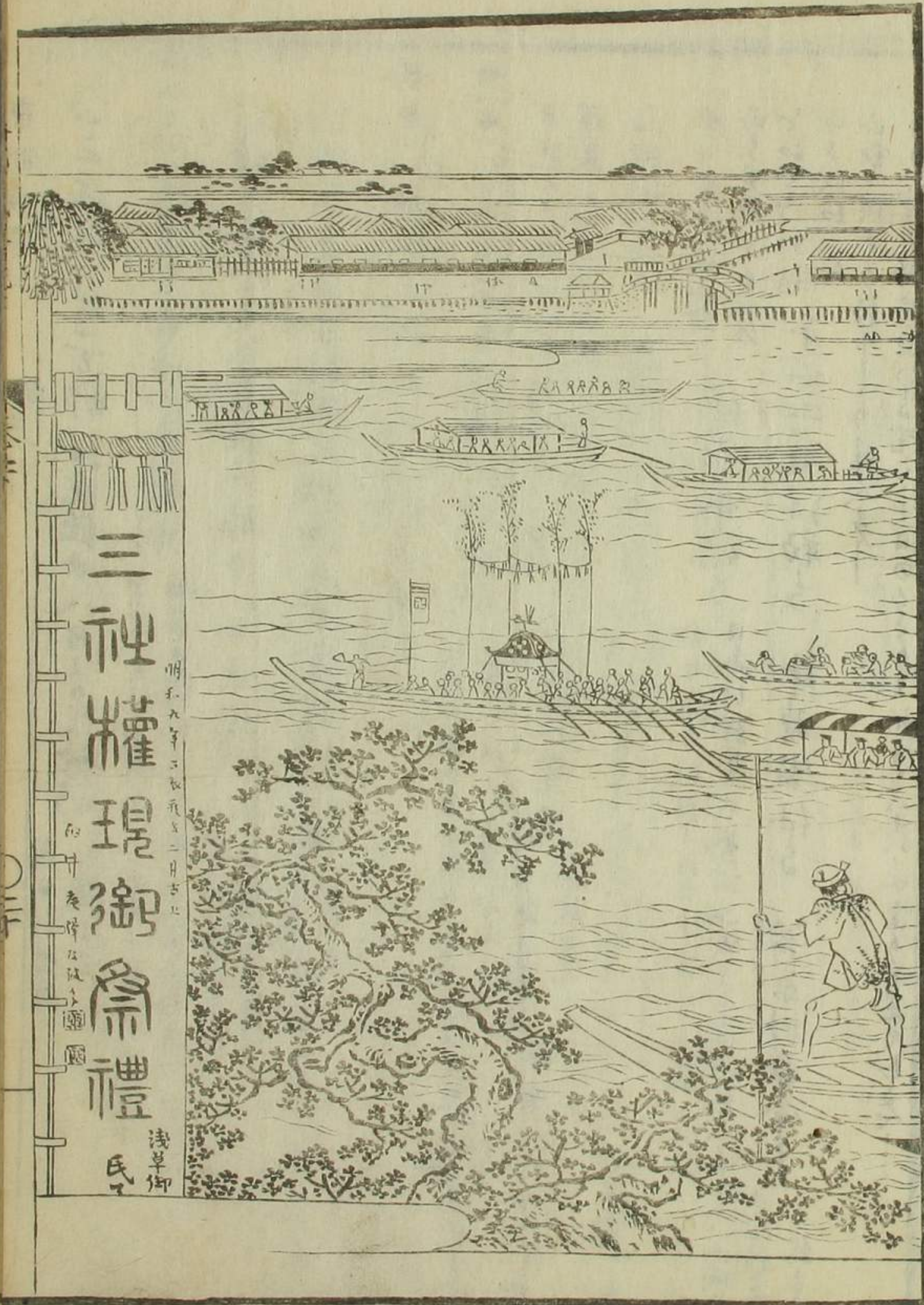
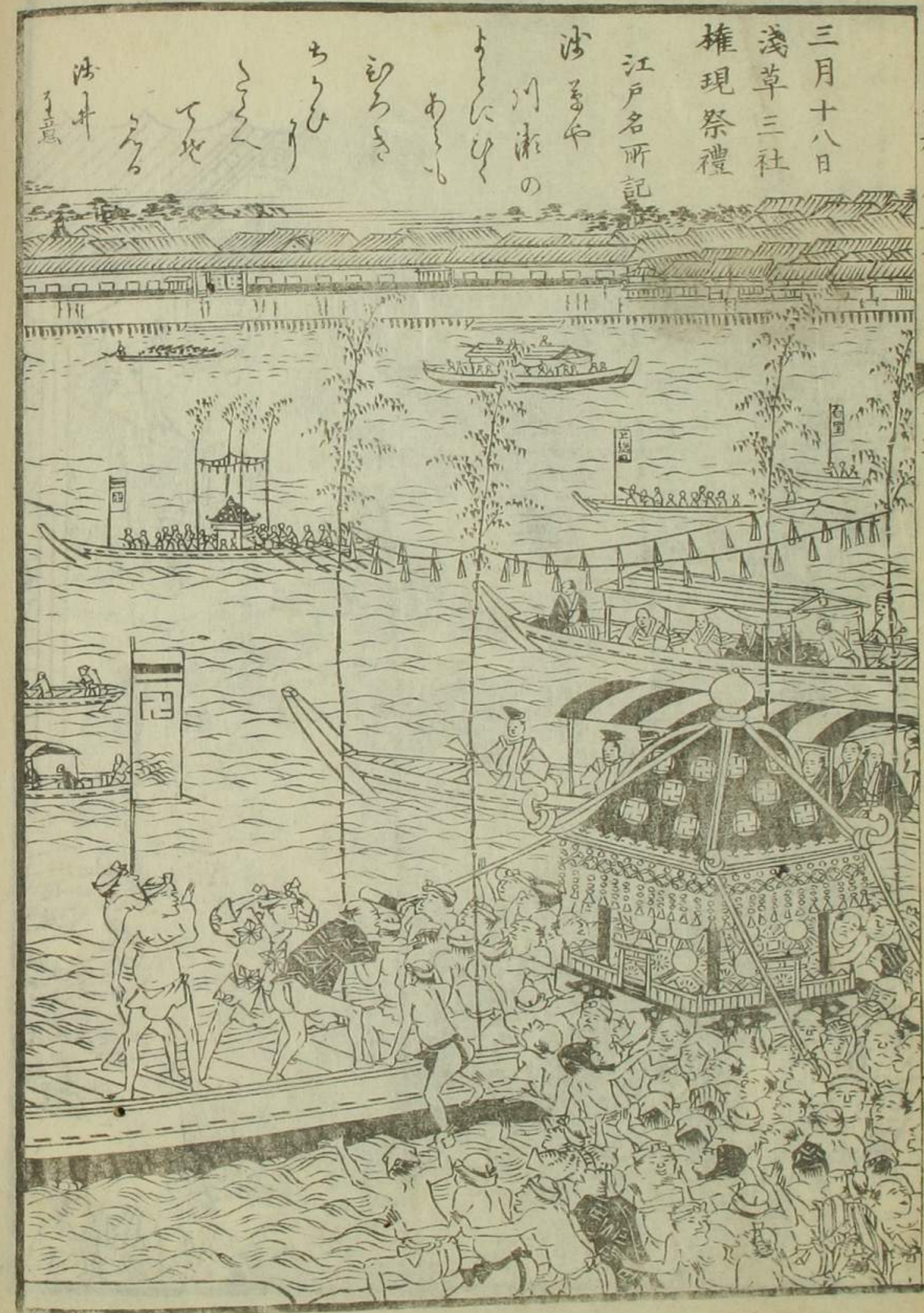
の

あそび

の

あそび

の



三社権現御祭禮

浅草御氏

○三徳法師等万部法院經廿八日また修り

俗子妙幡隨
法院より

十九日○法華寺雷津の葦市

○池上本町の法華經子部廿八日近修り

○源川本誓寺国光大師清忌廿八日近修り

廿日○飛戸天満宮太子神楽無事

廿一日○高言宗寺院寺新修修り

廿二日○小日向

廿三日○根津権現社太子神楽

廿四日○小日向

廿五日○南小川

廿六日○小日向

廿七日○南小川

廿八日○南小川

廿九日○南小川

三十日○南小川

○小日向

○南小川

○小日向

○南小川

○小日向

○南小川

○小日向

○南小川

○小日向

○南小川

○小日向

○南小川

○小日向

暑とやまは霞れ虫氣の薄く蚊の如くまゝつてつゝ人の汗のををとて過さず尋
福て「引」のものはまゝにふるまひ水乃下向を 其角

○勅進相撲 夏と秋とに於て無引を於合甲東一に於ては其の境内は於て無引を
日向院とす一の場所とて除茅垣町兼師津川八まん芝愛宕社地あり其の境
未だより福徳一蕃昌を頼ふなり又む南力と名付て舊古の爲臨時は無引す
と此中を婦女子も見物せしむは戸勅をお撲の始に寛永元子年明石志登と助といふ
者寄南力と号け日向院町に於て晴天に日無引をまはらせり今も其の無引す
寛文元五年申年官よをて再引無引すなり今も其の無引すなり今も其の無引すなり
も一古今お撲大全に引無引すなり今も其の無引すなり今も其の無引すなり

○書画會 子共より夏より都下の子共より一書と書と走らるる一紙寸幅と云ふの
榜上は充てて春年の登りやうて文華のりるを看る人又一立寄花程お掛
團基お基よ乃集會も此女伶の活會あり

○法名お名は會 淨瑠璃小唄に法名除き此の藝人との上をふらして師進より
藝と傳を其より夏と宗とす

○をるるお書古のりあふるるお敷おと府外の村に法一或ハ群集のあふりて
のををををのり制限の速速とてお練とまらむるあふるるのりお例てあふりて遊戯の業
乃坊とあふり

景物

桃 ○三春より六月十七日めはスカハラ 六人の渡りと海り大師 隅田川の堤 上野坊中
より大槻さくらにり 河原へは乃桃林あり

谷中三々も 中野桃屋ハ其也 谷中よりて桃すあふりて方一里余に白谷ふらふ
とて芭蕉の句に「海河ハふらふら桃のを」 海河ハふらふら桃のを

梨花 ○五月十日 生麦村 川原の 下総ハのり 市川の向ふり高のり
六月十日 大塚蒲田ハ園中 仲乃 ○同十七日 ちしき村百花園

榊棠 ○日見より 大塚蒲田ハ園中 仲乃 ○同十七日 ちしき村百花園

本中川兼師壇内 半井登天宮裏山 八重のり ちしき村百花園

高田山吹里ハ人ハのるるなり太田江津の故あり世人知るともらな略也

根津権現境内 恩恩拾花社 日暮

里修性院妙隆寺境内 大久保百人町 武蔵の宮中野ハ大木

屋の内ありて河り 高田とつと 霧崎の名にちしき村百花園

清乳山 大塚後ふも石坂左右 白鹿 赤川東海と徳吉のあ石坂の左右

漁獲 ○春穀釣のりハアハと姓名知る人あり寛文のあらと徳吉のあ石坂の左右

人見よつとて春穀を釣り世よは流布せしり凡釣の時春風源風源法晴乃法

備よつとて春穀を釣り世よは流布せしり凡釣の時春風源風源法晴乃法



靈元院
 御集
 雨
 花と
 ぬ
 袖も
 あれな
 うのま
 あは
 ちよ
 おん

東陽長事己

六二下

〇



氷柱
 風も
 梅宇
 ちよ
 ちよ

東都歳事言

卷二下

〇

